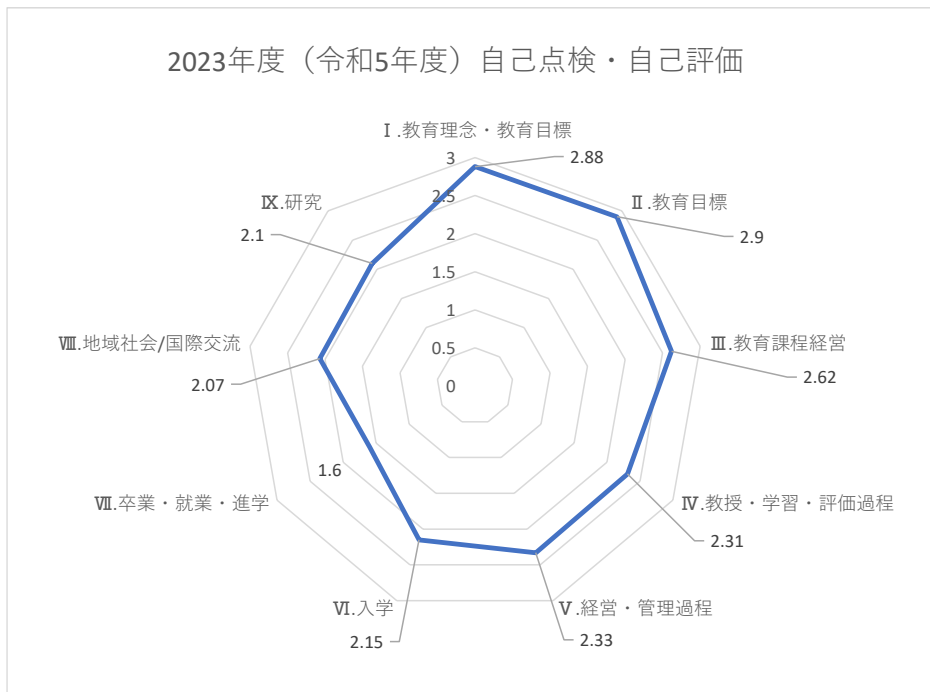


【令和5年度 自己点検・自己評価】

＜自己点検・自己評価について＞

自己点検・自己評価は教育評価の一環として位置づけられる。教育目的・目標の実現を目指して行われる教育活動に対して、必要な資料を収集して整理し、フィードバックする循環的・継続的過程である。養成所としての「教育の水準の維持・向上」と「創意工夫のある教育の追求」を図ることによって、常に質の高い保健師助産師看護師を養成していく責任と義務がある。各養成所はそのための「内部的品質保証の仕組み」が必要であり、この仕組みが「自己点検・自己評価である」(厚生労働省 HP 一部抜粋)

当校においては、平成19年学校教育法及び学校教育法施行規則の改正により、自己点検・自己評価の実施・公表が義務化、学校関係者評価(第3者評価)の実施・公表が努力義務化されたことを受け、平成22年より評価グループによる自己評価・自己点検を実施し教育内容の見直し・修正を実施している。しかし、学校関係者評価は導入できておらず、また外部への公表は学校祭での掲示等にとどまっており、学校関係者評価(第3者評価)の実施と公表が課題である。そのため、課題解消に向けて令和5年度に学校点検委員会要領を作成しており、今後は系統的・計画的な自己点検・自己評価実施と外部への公表を実施していきたい。



	平均
I.教育理念・教育目標	2.88
II.教育目標	2.9
III.教育課程経営	2.62
IV.教授・学習・評価過程	2.31
V.経営・管理過程	2.33
VI.入学	2.15
VII.卒業・就業・進学	1.6
VIII.地域社会/国際交流	2.07
IX.研究	2.1

令和5年度の自己評価結果より、総平均点が低かった項目は、Ⅵ入学(2.15)、Ⅶ卒業(1.6)

Ⅷ. 地域社会/国際交流(2.07)、Ⅸ研究(2.1)であり、いずれも2.3以下であった。

Ⅵ.入学については、入学者受け入れ方針(アドミッションポリシー)について明文化しており、入学者状況・入学者推移・入学者選抜方法の妥当性・効果について、JAあいち厚生連入試ワーキンググループにて検討し、入試方法・日程の見直しを実施している。JA 愛知厚生連の理念である「受ける立場に立った医療」を実施できる看護師育成のために、今後も入試状況の評価・修正を実施していく。

Ⅶ.卒業については、教育理念・教育目標と卒業生の到達状況について、毎年卒業生の自己評価は実施している。しかし、他者評価(教員・保護者・就職先の施設)の評価が不十分であるため、多角的な評価方法の導入が急務である。卒業時の到達状況を捉えるための評価表作成や卒業後の活動調査体制を構築し、当校の教育活動改善に取り組む。

Ⅷ. 地域社会/国際交流について、地域社会のニーズを把握するシステムは未構築である。地域への情報発信は、広報活動・学校祭等にて実施している。2022年導入の第5次カリキュラム改正より、「地域と暮らし」を新設科目として導入した。地域住民のニーズを把握し、看護実践活動や教育活動に繋げていきたい。国際交流については、第5次カリキュラム改正にて、地域の特徴を踏まえて「ポルトガル語」の科目を導入している。海外からの帰国学生への支援システムはあるが留学生を受け入れる体制はなく今後の課題である。

Ⅸ.研究については、JA 愛知厚生連看護師会にて看護研究発表会が毎年実施されており、当校も2019年に発表している。しかし、日常的に教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)する体制は不十分なため、教育の質向上に向けて改善していく。